



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 健やかな身体の育成
- ④ 豊かな心の育成
- ⑤ 生徒の良さを伸ばし、課題を
解決するための「連携・協働」を推進する

活動を振り返って…



●4月26日(金),
授業参観, PTA総
会, 学年懇談会を行
いました。多くの保
護者の皆さんに参加
していただき、あり

がとうございました。

●5月1日(水)～2日(木), 2年生は、宿泊学習
を実施しました。
桜木町のスーパー
マーケットでは、
横浜市民ふるさと
村として“道志村”
をアピールしまし
た。地元新聞の取材も受けました。



●5月14日(火),
生徒総会を行いま
した。今年度の活
動方針が確認され
ました。今後の活
動が楽しみです。

環境は人をつくり、 人は環境をつくる

私は、公開授業や研究会等で、他の学校を訪問することがあります。そんな時、校舎に入っただけなのに、誰とも会話をしていないのに、その場(学校)の雰囲気を感じることがあります。すると、どうでしょう。そこで生活している子どもたちの様子も感じられ、楽

しい気分になります。その逆の場合もあります。

今年度、学校経営の指導重点の1つとして、「居心地がよく、やる気のある学級集団・学校づくり」を掲げて、様々な取り組みを始めています。

その際、先生たちは、生徒にとって、どのタイミングで、どのように語りかけることが、プラスにはたらくのか、やる気を高められるのか等を重要なポイントとして、日々考えながら、指導や支援を行っています。

これは、学校だけではなく、家庭教育にもいえるポイントではないでしょうか。

例えば、テスト結果を見せてくれた我が子に対して、「すごいね」「よくやったね」「勉強した成果だね」「次、頑張ってね」と声をかけるか、「いつもこうだといいいんだけどね」「こんな簡単な問題、なぜ間違ったの」「ひどい点数」と声をかけるか?

もちろん、叱咤激励もあるでしょうが「やる気」のモチベーションは、だいぶ異なることでしょう。その声かけは、我が子の能力を最大限に発揮できるものになっているのでしょうか。環境は人をつくるのです。

ところで、話は変わりますが、最初は「まだまだ力不足」と感じられていた生徒たちが、どんどん成長していく場面を目にすることがあります。その環境で、何とか努力を続けていくうちに、不思議なことに、いつの間にか、その場面や立場にふさわしい成長を遂げていくのです。

ただ、誰もがそのように成長するかと言えば、そうではなく、「自分は環境に恵まれていない」「努力しても何も実らない」と嘆く場面も目にします。

確かに、自分の思い通りにならないことは、多々ありますが、何か(変化)を待っているだけではいけません。自分で環境を変えていく努力が必要です。

最初を起こす小さな変化が次につながり、最終的には大きな変化につながるのです。そのお手伝い(きっかけづくり)は、大人(学校や家庭)の役目です。人は環境をつくるのです。